

教科・領域教育専攻  
芸術系コース（音楽）  
水島 悠貴

指導教員 森 正

【修了演奏曲目：ピアノ独奏】

フレデリック・ショパン作曲  
Frédéric Chopin

- ・ポロネーズ第1番嬰ハ短調作品26-1  
Polonaise No.1 in C sharp minor. Op.26-1
- ・マズルカ第13番イ短調作品17-4  
Mazurka No.13 in A minor. Op.17-4
- ・マズルカ第15番ハ長調作品24-2  
Mazurka No.15 in C major. Op.24-2
- ・マズルカ風ロンドへ長調作品5  
Rondo a la Mazur in F major. Op.5

1. はじめに

ショパンの作品には、ポーランド特有の民族性が見られ、特にポーランド舞曲をもとにしたマズルカとポロネーズには、民族性がよく現れているといわれている。また、「マズルカ風ロンドへ長調」作品5のように、民族舞曲のマズルカの特徴を他の形式の作品に取り入れている例もある。

本研究では、ショパンのピアノ作品における民族性について理解する1つの手掛かりとして、民族舞曲のポロネーズとマズルカの特徴を楽曲

にどのように生かしたかについて検討したい。また、どのような背景でショパンは作品に民族性を取り入れたのかについても考察する。そして、これらのことをもとにショパンのピアノ作品を解釈し、演奏表現につなげることを目的とする。

2. 研究の概要

第1章では、ポーランドの民族舞曲のポロネーズとマズルカについて整理した。ポロネーズは、農民の舞曲から貴族の舞曲へと発展し、現在のポロネーズの特徴が定着したのは18世紀になってからであることがわかった。マズルカは、農民を中心に踊り継がれた舞曲で、マズル、クヤヴィアク、オベレクの3つの舞曲に分類され、それぞれの舞曲の特徴を共通点と相違点に分けて理解することができた。

第2章では、ショパンが作品に民族性を取り入れた背景と、その意図や想いについて考察した。ショパンが楽曲に民族性を取り入れた背景として、以下の3つを挙げる。1つ目は、少年頃のショパンが民族音楽に興味を持ったことである。ショパンは、ポーランド民謡を生活の中で自然と耳にし、特に各地の田舎で民謡と民族舞曲を見聞きした経験によって民族音楽に興味をもった。2つ目は、ショパンの民族意識が高まったことである。当時ポーランドはロシア、プロイセン、オーストリアの3ヶ国に支配され

ており、1831年の11月蜂起の敗北はショパンの民族性に多大な影響を与えたと考えられている。3つ目は、ショパンが、当時の風潮に影響を受けたと考えられることである。当時、民族音楽をもとにした軍歌や国歌を歌うことで士気を高めたり、民族音楽を作曲、演奏することで愛国心を表明したりする風潮があり、ショパンもそれに影響を受けたと考えられる。さらに、ショパンの書いた手紙から、ショパンは民族音楽を理解しようと努め、自己の民族意識を音楽に込めようとしていたということが読み取れた。そのことから、「ポロネーズ」では、その想いや感情が音に表されていると考え、「マズルカ」では、ほぼ生涯に渡って書かれた作品であるため、ポーランドに想いを馳せて日々、日記のように書いていたのではないかという考えにいたった。

第3章では、ショパンの楽曲に見られる民族舞曲の特徴について、譜例を用いながら考察した。ショパンの「ポロネーズ」では、民族舞曲のポロネーズのリズムが作品の中で様々に展開されていることや *maestoso* という表記からもポーランドの悲劇的歴史や、祖国への想いが感じられると考えた。ショパンの「マズルカ」では、リズムや旋律、速度といった民族舞曲の特徴の違い、アクセントからテンポ・ルバートが起ること、教会旋法や空虛5度が作品に見られることから、民族舞曲の特徴が顕著に現れていることがわかった。

第4章では、ショパンのピアノ作品を民族舞曲の特徴をもとに楽曲分析及び演奏解釈を行った。「ポロネーズ 第1番 嬰ハ短調」作品26-1では、*appassionato* という表情記号から、熱く激しい感情の高まりが強弱や上下行する旋律、技巧的なフィギュレーションなどで表されていると解釈した。「マズルカ」では、民族舞曲の特

徴が顕著に現れていることから、それぞれの舞曲のキャラクターを生かして演奏しようと考えた。「マズルカ風ロンド へ長調」作品5では、マズルカの特徴が見られるところを見つけ出し、舞曲の特徴が生かせるように演奏解釈を行った。

### 3. おわりに

本研究では、ショパンの民族性を理解する1つの手掛かりとして、民族舞曲のポロネーズとマズルカに焦点をあてて、①ショパンがどのように作品に取り入れたのか、②どのような背景から取り入れようとしたのかについて考察した。そして、ショパンのピアノ作品を民族舞曲の特徴をもとに演奏解釈を行った。舞曲の特徴や背景を知ること、楽譜だけでは見えてこなかった面を読み取ることができた。また、民族舞曲の特徴をもとに演奏解釈することで、その作品をどう演奏したいかを以前に比べて、より深く考えることができたと感じる。

今回は、ショパンの「ポロネーズ」と「マズルカ」に注目して考察したが、今後はショパンの「ポロネーズ」と「マズルカ」以外の作品に見られる民族性についても研究し、さらにショパンのピアノ作品について理解を深めたい。

また、演奏表現を相手に伝える難しさを感じたため、表現力を磨くことは、今後の大きな課題と考える。